

【資料2－③】

令和3年度に取り組む実証事業について(大阪府)

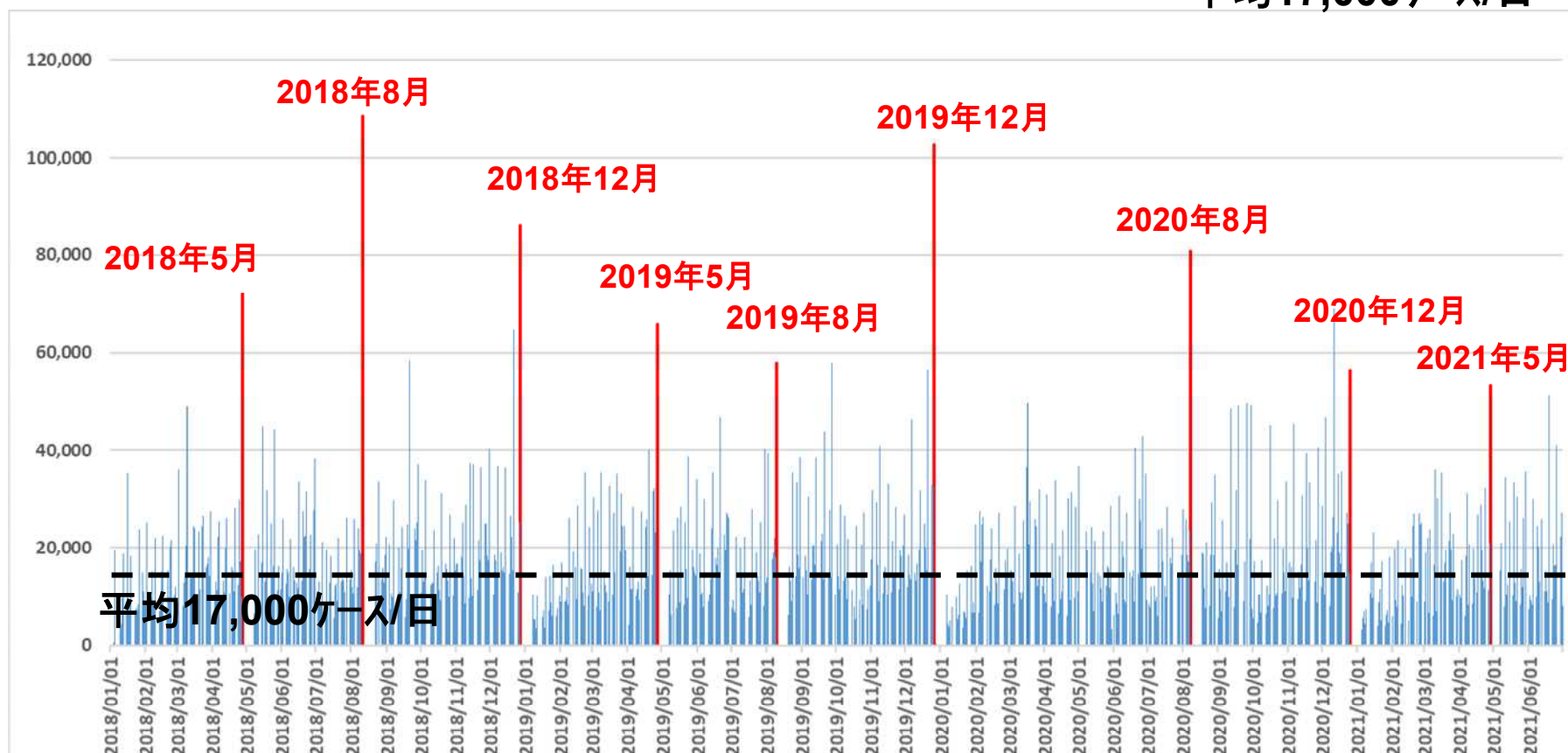
大型連休前に卸店への入荷貨物が増加

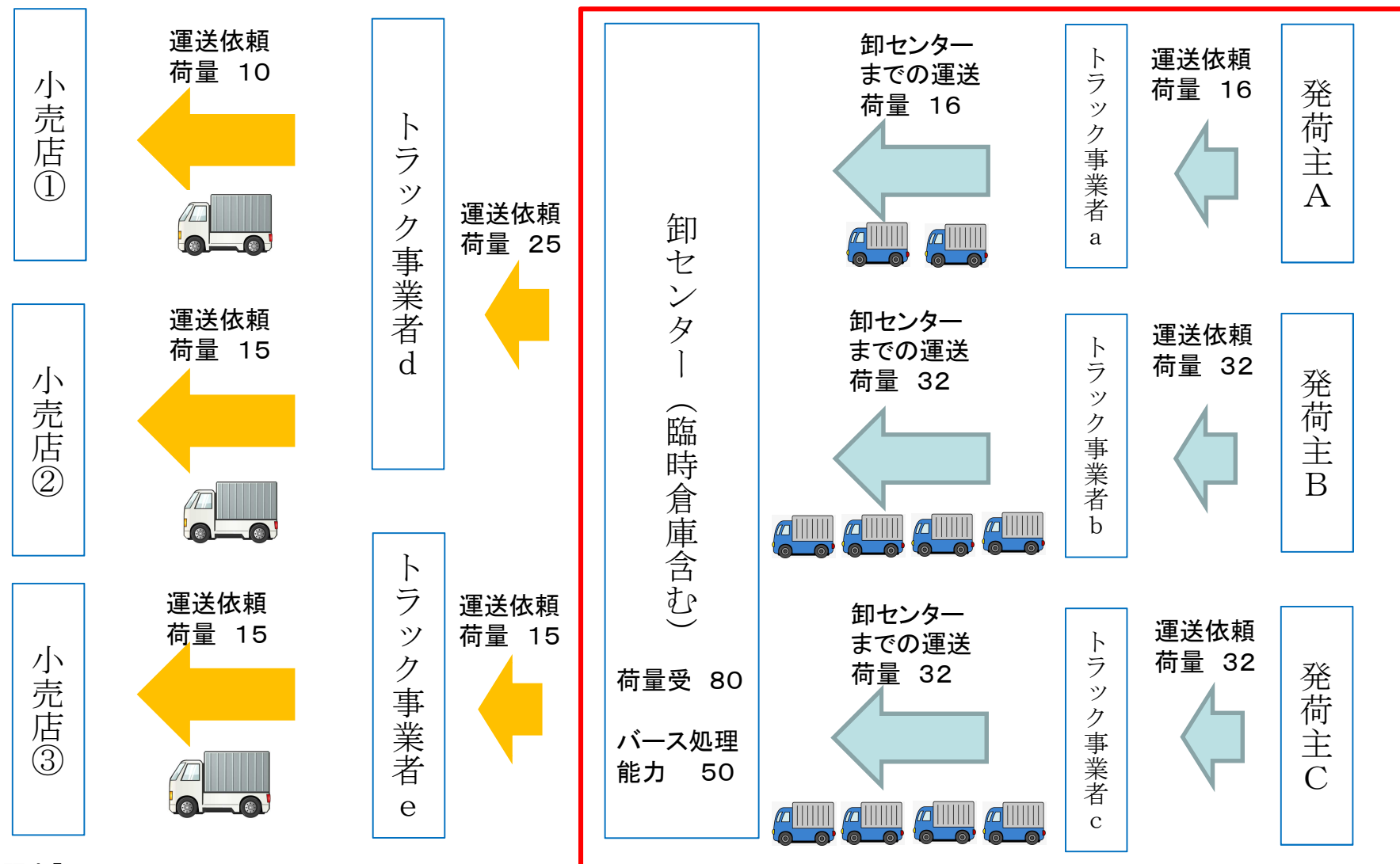
長時間の待機が発生

- 根本的に入荷車両の台数が多い
- 入荷先のホームに荷が溢れ、次の車が下せない

	出荷数	構成
月	1,922,588	13%
火	3,220,297	21%
水	2,524,229	17%
木	2,378,533	16%
金	5,186,452	34%

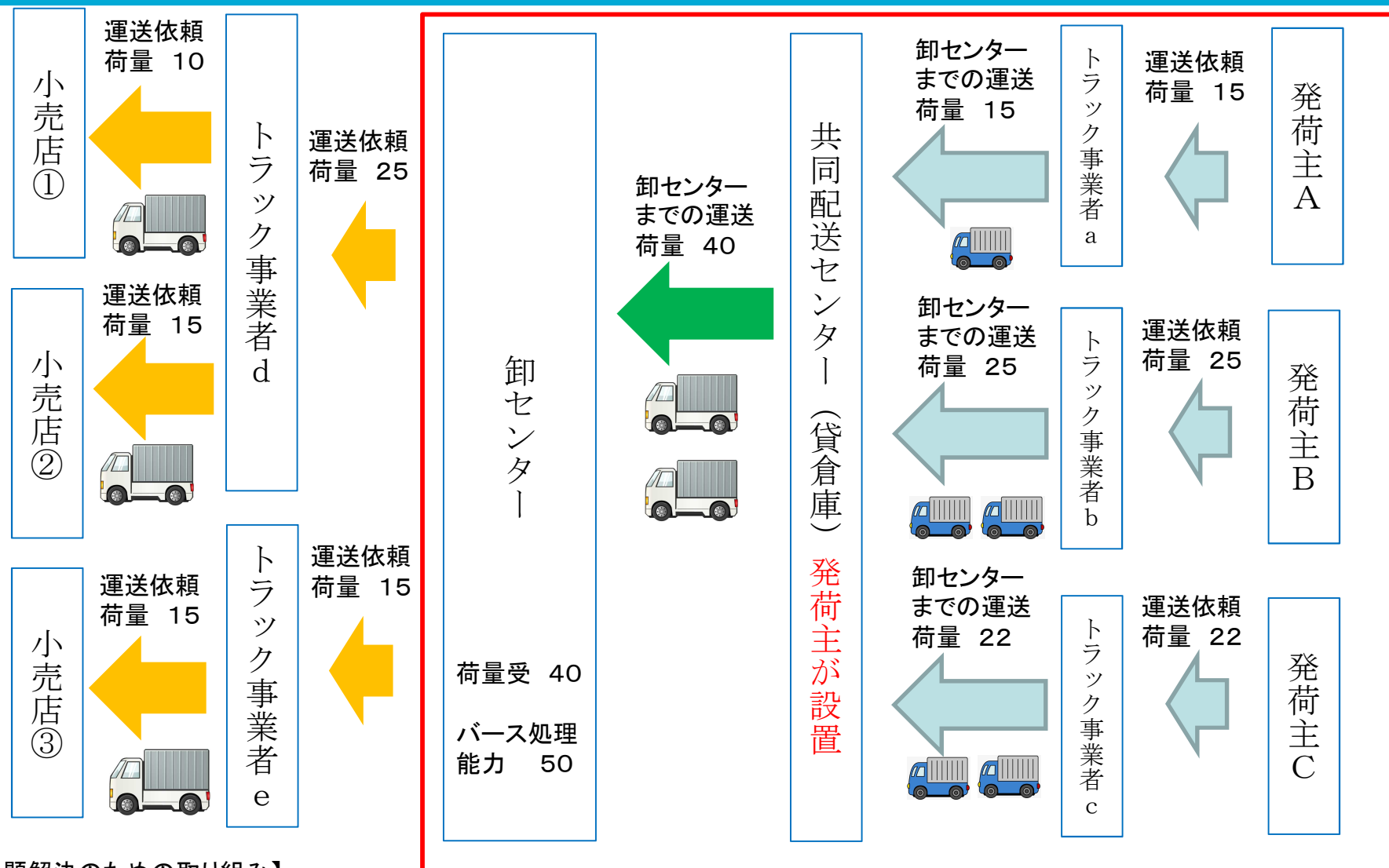
平均17,000ケース/日





【問題点】

- ・発荷主(メーカー)が長期休暇となる一方、連休中は小売店が繁忙期となり、卸センターは連休前に必要な商品の荷量を確保しておく必要があるため、大型連休前に大幅に荷量が増加する。
- ・発荷主(メーカー)から連休中に出荷する荷量を確保するため、既存の保管場所では対応できず、臨時倉庫が必要となる。
- ・卸センターへの入荷車両が多く、卸センターの人手が足りず長時間の荷待ちが増加し周辺道路に渋滞が発生する。
- ・臨時倉庫の賃貸料や臨時倉庫から卸センターへの横持ち費用は卸センターで負担している。



【課題解決のための取り組み】

- ・納品先の近くに数社(発荷主)共同で共同配送センターを運営する。
- ・共同配送センターに連休前数日かけて発荷主が休日分の荷を集結させ、共同配送センターから順次、卸センターに荷を補填する。
- ・臨時に倉庫を使うため、時期的に空いているメーカーの倉庫を活用する。
- ・連休中は、必要な量に合わせて共同配送センターから卸センターに補填された荷を小売店に配送する。